

半切四分の一に書くⅡ (22)

締切り 十月二十四日 (必着)



神谷 葵水 先生 書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のこと、その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×十七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

ります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 魚遊水底涼 (宋・陳与義)

〔大意〕 魚は涼しげな水底で戯れ合う。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤滑も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べるのが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に収めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×十七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フエルトペン・筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

識
投
資
常
取
高
利
息

※楷書は、コンマ数ミリの違いでバランスが変わります。集中力を高めて、その微妙な差をコントロールしよう。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

知識への投資は
常に最高の利息が
ついてきます

おく 村 暢 之 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

人
間
努
力
限
制
迷

悩	努	人
み	力	間
迷	を	は
う	す	
も	る	
の	限	
だ	り	

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範＝楷書
▼師範＝楷書

◆11月課題予告（行草または草書）
個性的な作品を
作りたいと思う人は
個性の弱い人です

★知識への：（書体＝楷書）
ベンジャミン・フランクリン
（一七〇五～一七九〇）
アメリカ合衆国の政治家・物理学者
その人の努力に応じて、必ずその分
の利息がついてきます。
日々忙しい中で、どれだけ知識への
投資をする時間を割り当てることで
きるでしょうか。
長い目で見た時に、大きな差となっ
て表れてくると考えられます。

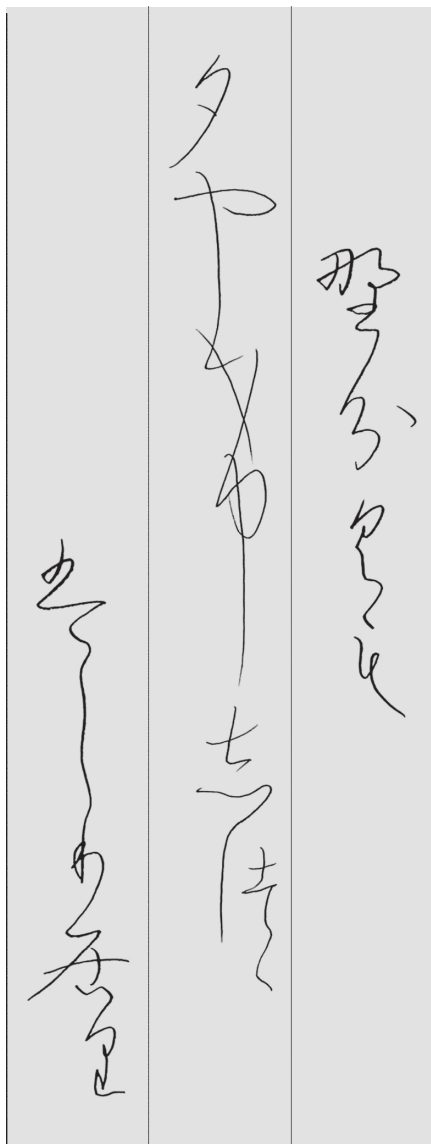
◆11月課題予告（楷書）
希望は
起きている人の
夢に過ぎない

★人間は：（書体＝行書）
ゲーテ（一七四九～一八三二）
詩人・哲学者
夢や目標を持って努力するのは良い
ことですが、迷うのは、より良い選択
をしたいという願望があるからです。
人生は選択の連続とも言えますが、
迷うのは選択の自由があるということ
で、迷いながらも努力をし続けられ
ば必ずから道は開くでしょう。

準初段から六段まで

新入から1級まで

野分雲^{具毛}夕焼^{や希志徒、盤し利}しつゝ走り居^里

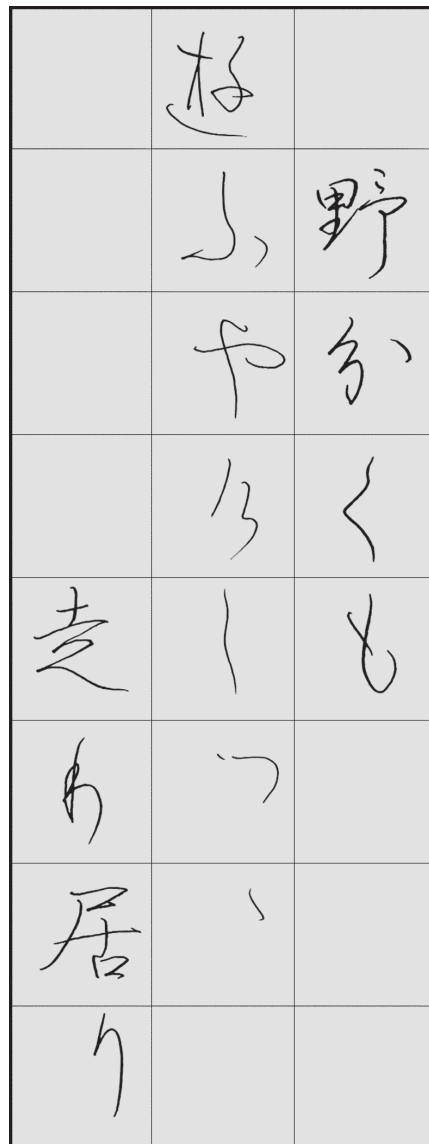


田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

野分雲^{久も遊ふや介}夕焼^{川(州)}しつゝ走り居^利



田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

野分雲^{のわきぐもゆふやけ}夕焼^ゆしつゝ走り居^を

(高浜年尾)

【句解】午後からあやしい雲行きをみせていた空が、夕方になると一嵐きそ^{ひとあらし}うな気配で、雲はますます速さを増してきた。折から落日の空は茜色^{あかねいろ}に染まり、野分雲もさまざまな色に染まりながら空を走っている。

【鑑賞】きわめてダイナミックな美しさに満ちた句である。走る野分雲が夕焼けているというのでなく、夕焼けしながら走っているというところに、野分雲の動きと同時に、夕焼け雲の色の変化も巧みにとらえられている。

【古筆参考】

具^く 走^{はし}り 居^いる
遊^{あそ}ぶ 雲^{くも} 夕^{ゆふ}焼^やけ
希^け 川^{かわ} 中^な 貴^き 光^{こう} 書^か
盤^{ばん} 野^の 分^わ 雲^{くも} 夕^{ゆふ} 焼^や け
し っ っ 走 り 居

【解説】「し」を書く時は、上へ突き

当ててから下へ書きおろす。仮名や変体仮名の長く引く線は、特に線の中央部分に筆圧をかけると柔らかさが出る。

◆11月課題予告

また一人遠く^{とほ}の蘆^{あし}を刈^かりはじむ

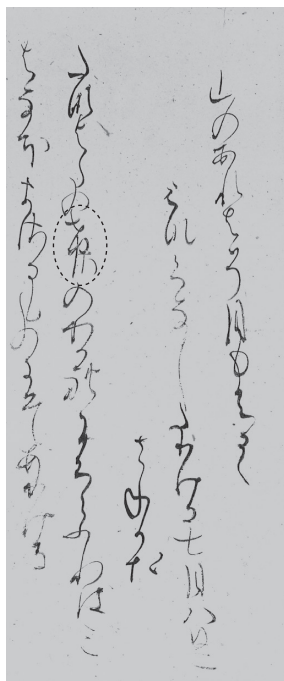
(高野素十)

締切り 十月二十四日（必着）

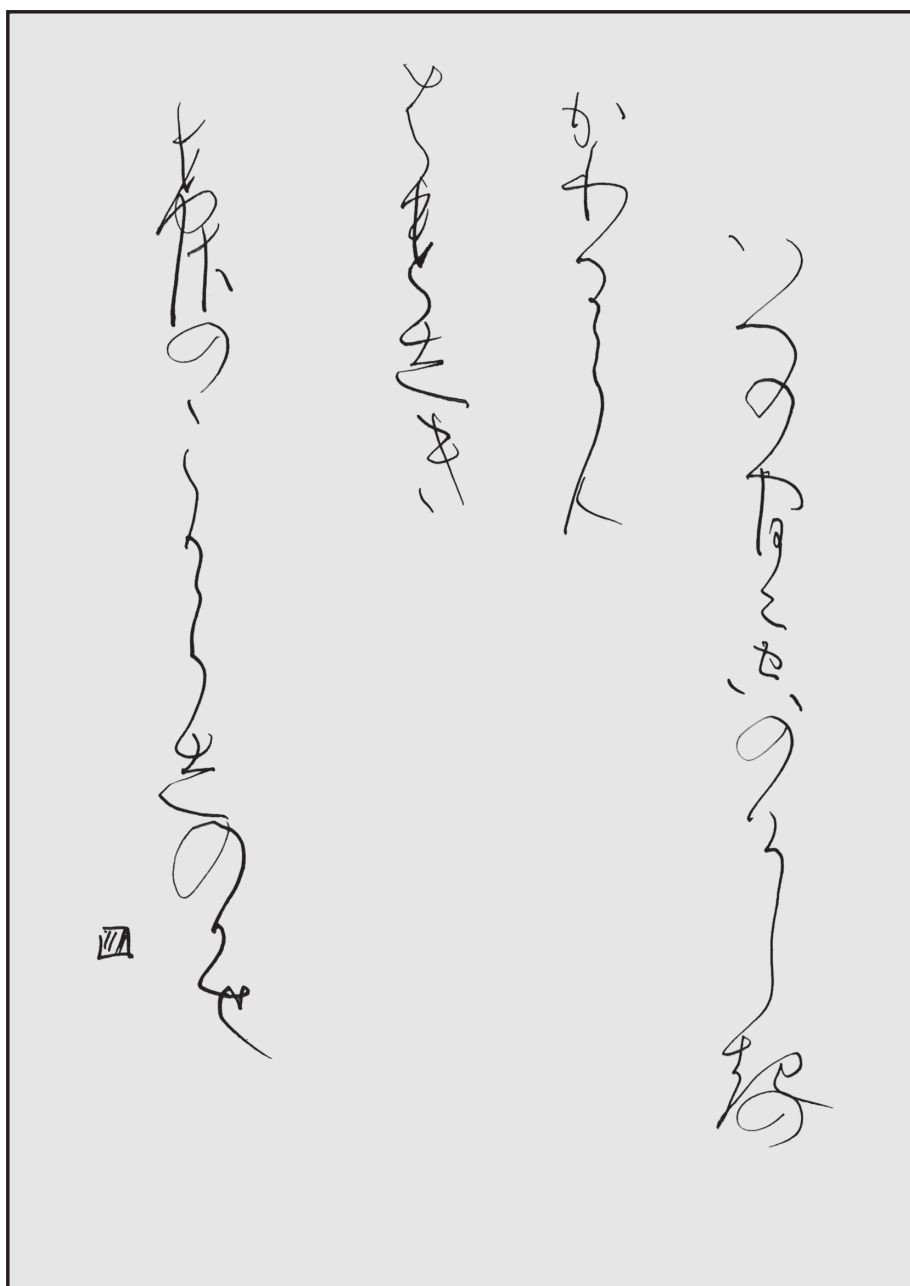
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

こうしきれ
香紙切



○「希佐」の出典

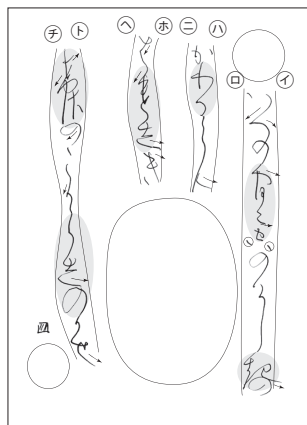


山のあればぞ月もかくるゝ
こなくなしたりける七月八日に
多那者多 希佐 可禮尔久 三
たなばたのけさのわかれにくらぶればみ
はなほまさるものにぞありける

◆11月課題予告

かささぎの渡せる橋におく霜の
白きを見れば夜ぞふけにける

- ・ ①と㊦、①と㊢、①と㊤、①と㊥、
①と㊦、①と㊥、㊦と㊤、㊦と㊥、㊤と㊥、
それぞれ呼応。
- ・ ○余白大切。
- ・ ●の動き大切。
- ・ ↙の方向大切。



〔解説〕

〔出典〕新古今和歌集
(新潮日本古典集成)

「歌意」 二 介 起 かわ
いつの間に空のけしきの変るらむ
はげしきけさのこがらしの風
よ。
「歌意」 いったい、いつのまに空は冬
らしく変わってしまったのだろう。冬
になった今朝のこがらしの風の烈しさ
よ。

締切り 10月24日(必着)

今年もまた、紅葉を愛でながら
山歩きを楽しみむ頃になりました。
彦根城の紅葉も、さぞかし見事な
ことでしょう。真新しいカメラと
三脚を抱えて出掛けつもりです。
その節はよろしくお願いします。

※手本は水性ボールペン使用

今年もまた、紅葉を愛でながら
山歩きを楽しみむ頃になりました。
彦根城の紅葉も、さぞかし見事な
ことでしょう。真新しいカメラと
三脚を抱えて出掛けつもりです。
その節はよろしくお願いします。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

リストは、ピアノの表現力を極限
まで高め音楽史上に一期を画した。

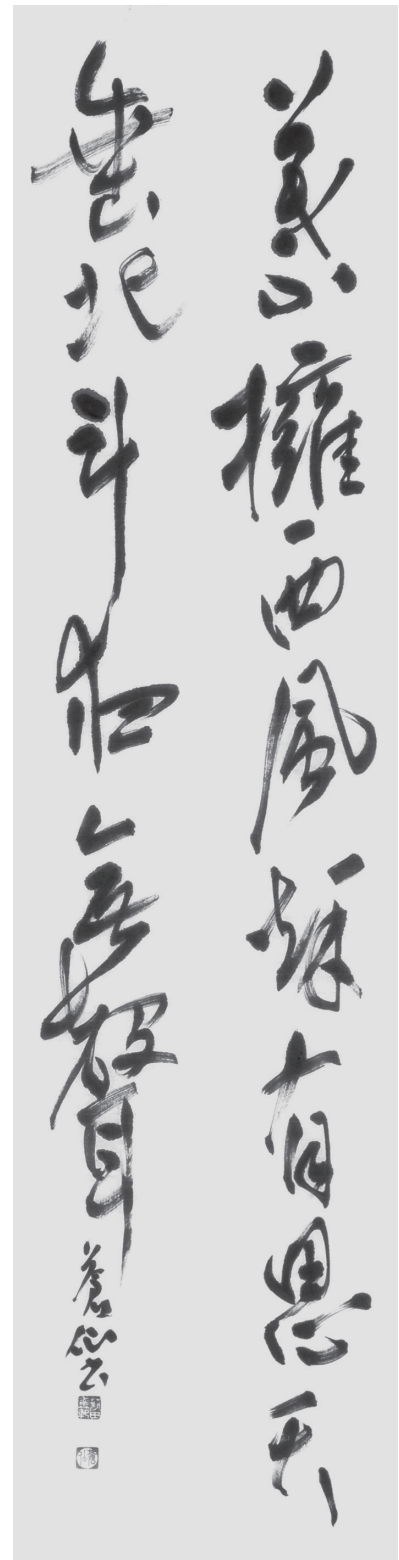
新潟県佐渡市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆条幅課題

締切り 十月二十四日（必着） 半切（一三六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



葉擁西風秋有思

天垂北斗夜無聲

楊雲翼

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔大意〕草木の葉は西
の風を含んで秋を思う
所あるように、空は北
斗星が明らかに見えて
夜は静かである。

一般部毛筆細字課題

アキアカネの群れがベランダの
向こうに飛び交う光景を見ても
秋の気配を感じます いよいよ
来週は念仏の上高地散策ですね
小林由美子

書 香 梅 藤 伊

半紙（334mm×240mm）

〔条幅解説〕

気合を入れる、頑張る……過ぎると線、形が固くなる。リズムも。時には仕上げ前に軽く一杯、愉快的なテレビを見る、談笑、散歩、オートバイ……。皆さんは何をされますか。毎月の競書でもパターンを変えて多様な経験を持つ事で表現力が増します。

アキアカネの群れがベランダの
向こうに飛び交う光景を見ると
秋の気配を感じます いよいよ
来週は念仏の上高地散策ですね
（ご自分の氏名）
・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔おことわり〕…毛筆部はレイアウトの関係で、条幅・細字課題を先に掲載しました。

新入から1級まで(行書)

須田一葉書

千峰黄葉村

〔解説〕

千 スッキリと
広

峰 下げすぎないように
広く

黄

葉 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

村 右上がり

◎今月から、毛筆漢字・かなの課題を縦組みとし、より学びやすくしました。

千峰黄葉村
せんほうこうようのむら

〔大意〕周囲の山々が紅葉した美しい村。

◎行書について

行書は楷書に比べ、一点一画に力を入れ過ぎないように軽やかに書きます。筆法は蔵鋒がよい。筆脈が続くように書くことが重要です。

蔵鋒：起筆(始筆)の時、筆の先を外に出さないように書くので少し丸みのある線になります。露鋒の対語。

筆脈：線やハネ等が続くように書く。多用するとうるさくなるので注意！

・筆は立てて書くことが基本です。常に穂先が線の中心を通ること。

・墨量や線の肥瘦にも注意する。

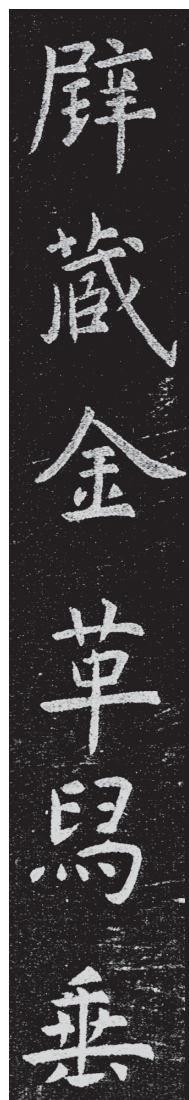
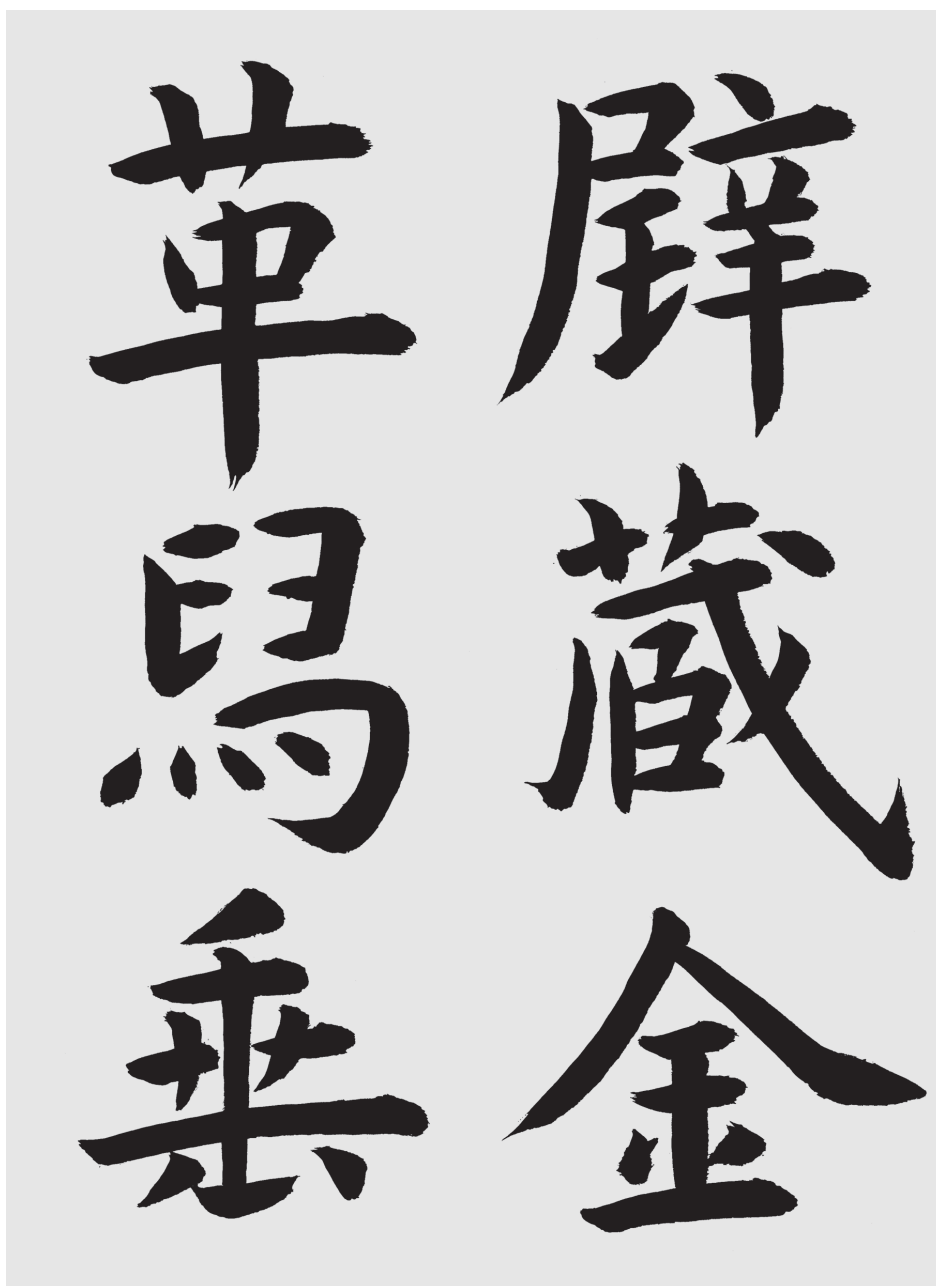
・文字の中心と行の中心、左右のバランスを考えて書くことも大切です。

◆11月課題予告(楷書)

天寒霜意新

準初段から師範まで

奥村暢之臨



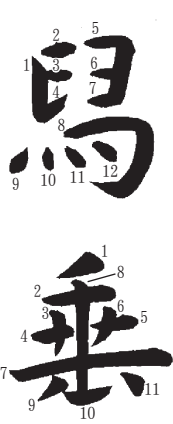
壁
蔵
金
革
鳥
垂

〔出典〕孔子廟堂碑（六二六～六三三）
〔筆者〕虞世南（五五八～六三八）
〔読み〕壁を（抵ちて）金を蔵し、
革鳥（風を）垂れ、

◎最近ページに余裕が出てきましたので、本号から毛筆部の漢字とかなの課題手本を見やすい縦組みにしました。解説のスペースも確保できましたので、皆さんの学習の手助けになればと思います。

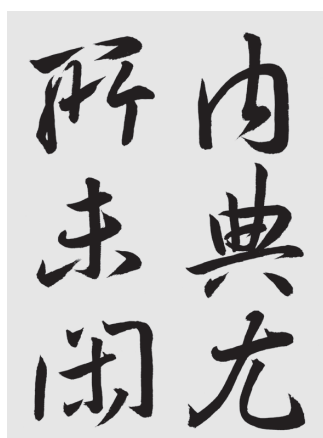


○13は長く・14は高く
○1、2の幅広く



○点の方向放射状

◆11月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書

鶏頭を三尺離れもの思ふ

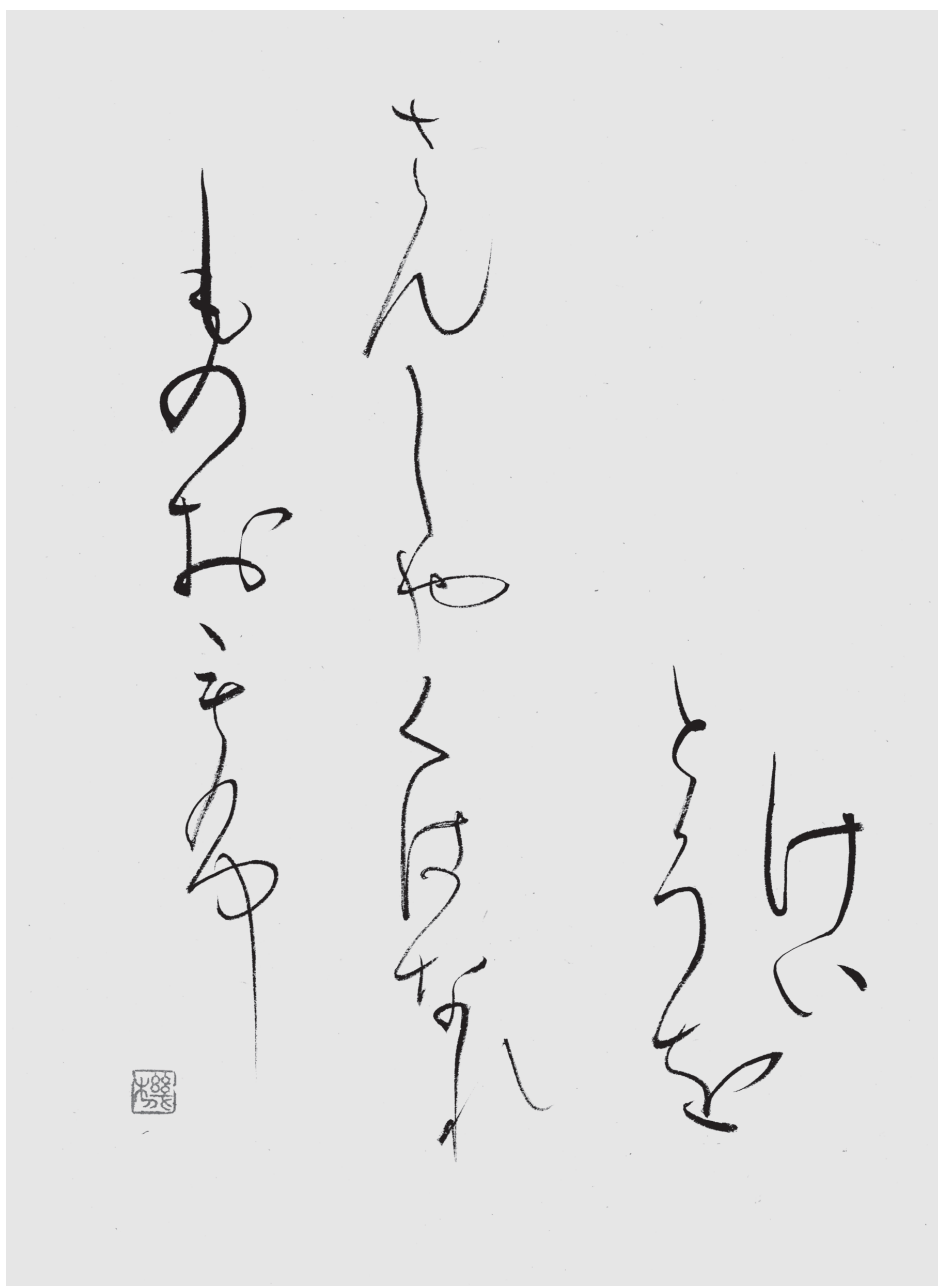
細見綾子「冬薔薇」

〔句意〕

鶏頭花を適当な距離において物思いにふけっているのである。三尺離れて師の影を踏まずといった語句を思わせる。つつしみ深い女性の様子が表れた句。

◆11月課題予告

天地の間にほろと時雨かな



〔解説〕

全体を4行に書きました。各行の字数は2、3、8、5です。字数によって行の長さも変化しています。

それでは始めから見いきましょう。「けい」、やや大きめに書き出しました。

「とうを」、「と」を「け」より上から書いていますが小さめに書いて、ゆったり「う」へ連綿しています。さらに連綿線を伸ばして「を」の1画目につなぎ、「を」はややつぶれた字形にして「とう」の流れをがっちり受け止め、さらに「けい」をも受けて2行をまとめます。

行間を広めにとって、3行目に入ります。

「さん」、「さ」は前の行の「と」くらいの大きさを、「ん」は伸びやかに大きくします。

「じゃ」、「し」は上の「さん」をカタマリとみなして串刺しするつもりで書く流れをしっかりと捉えることができます。

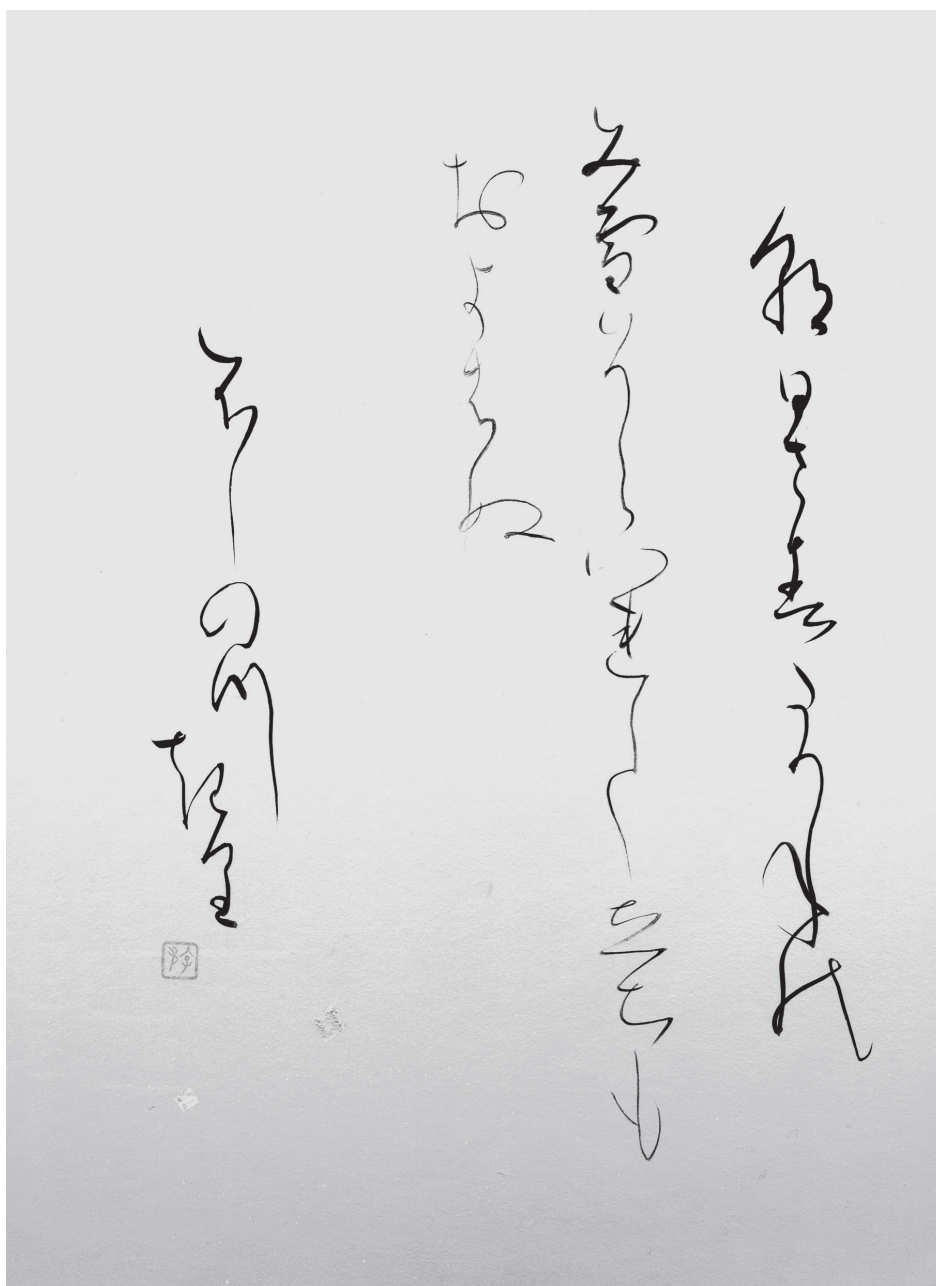
「くはなれ」、この4字で前の行の「とうを」とほぼ同じ長さになっています。ここで大事なのが「れ」の書く位置です。上の流れを右へ中心移行させてこの行を書き終えています。上の方から押されて右にはみ出したようになっています。

4行目は

「ものお」、ゆったり大きめの字で書きます。変体仮名は、最後の「毛布」2字です。「布」の最後の線は、のびのびと書きます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



朝日^{春多可年能}さすたかねのみ雪^{曾ら八連弓}空晴れて

立ち^者もおよばぬ富士^{不し}の川霧^{起里}

〔句意〕

富士の高嶺の雪を朝日が照らし、空は晴れ、富士川の川霧はいくら立ってもかくすことはできない。

◆11月課題予告

あしひきの山路^{やまち}も知らず白樫^{しろかし}の枝^{えだ}にも葉^はにも雪のふれれば

「続後撰和歌集」藤原家隆^{ふじわらのいえたか}

〔解説〕全体を真ん中より右側に3行、行頭と行尾の高さを変えてみしました。左側の大きな余白に1行と少しずらして2字を添え宙に浮いた形にしました。右左の塊とみてバランスがとれていれば、この散らし書きは成功したと考えます。

墨継ぎは単純です。1行目の「朝」と4行目の「不」で、ともに行頭で墨継ぎをしています。

それでは、始めから見ていきましょう。

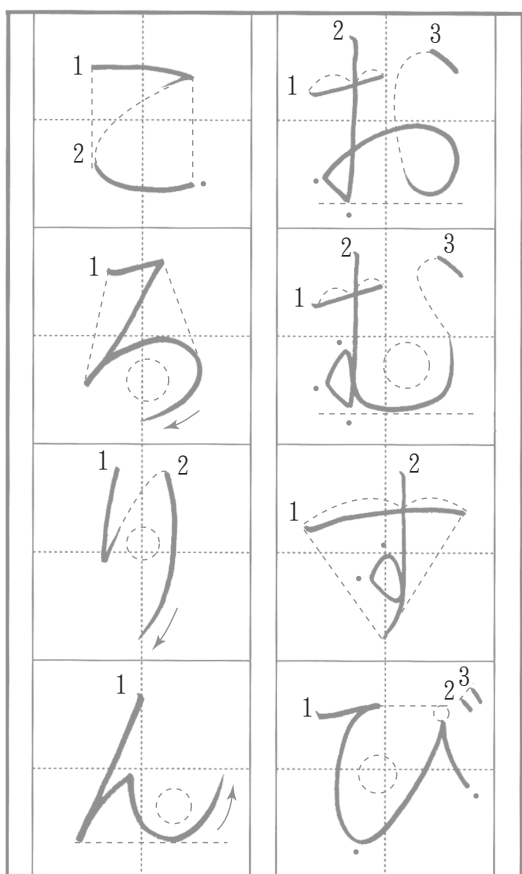
「朝」は、単体で勢いよく書き出していますが、出だしは頑張りすぎて、太くなりすぎると、全体が狂いますから注意が必要です。

「日さ春」は、大きな「朝」を受けて細身に書き、「春」の下部で左右に揺らして変化を作ります。「多可」でまた細身に受け、「年能」は大きく揺らして1行に変化を作ります。

「み雪」は、前行より上げて書き出します。

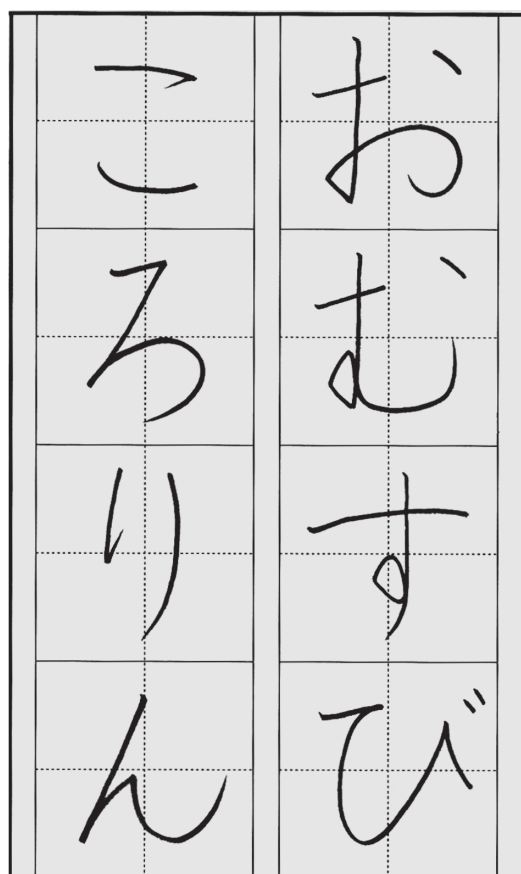
そして、まだ筆には十分含まれていない状態ですから、太さを出し「雪」の下半分は細身にして「曾ら」につないでいきます。「八」で幅を広げて右行に響くようにし、左右に揺さぶった「連」を一気に「弓」の流れに誘い、「立ち」で左右に揺さぶり、「も」ですっきりと受けて前行との違いを表現します。そして、この行は全体の柱のように一番長い行で構成します。長い行は全体を安定した散らし書きにしてくれます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



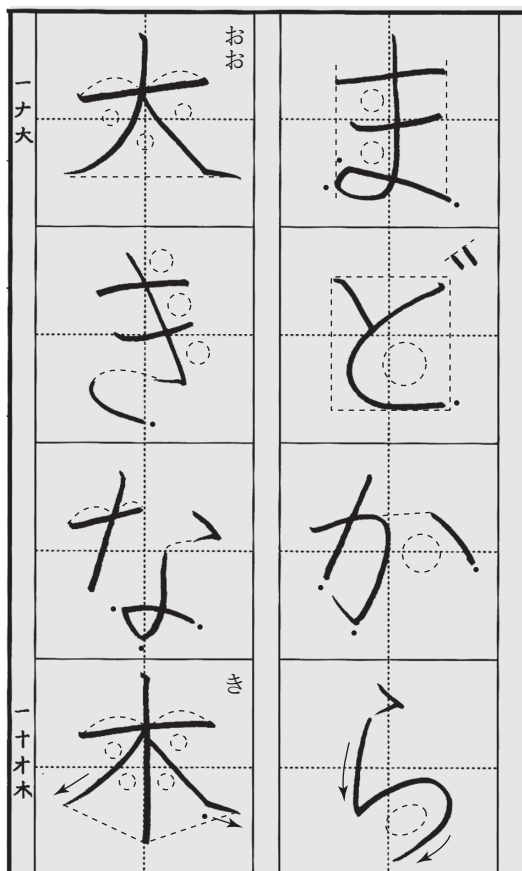
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

上	地
に	図
あ	の
る	右

うえ
チ
ズ
みぎ
ノナオ右右

新入1級

道	右	日
が	上	本
あ	に	地
る	北	図
よ	海	の

準初段以上

小二年

準初段以上

く	秋
り	の
拾	山
い	で

あき
やま
ひろ
ニナナ秋秋

新入1級

り	く	秋
拾	山	の
い	中	鳥
す	で	が
る	く	鳴

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

月	つき	十	ジユウ
照	て	五	ゴ
夜	ヤ	の	
す		明	

新入〜1級

る	月	十
く	が	五
照	街	夜
ら	を	の
す	明	満

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

耕	たがや(す)	ま(せる)	耕
畑	はたけ	野	ヤ
肥	ヒ	菜	サイ
料	リョウ	育	そだ(てる)

解説(よく見て習いましょう)

野	肥	耕
菜	料	し
育	を	た
て	混	畑
る	ぜ	に

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具〉自由(黒色に限る)

売	父
店	通
新	勤
間	駅

解説(よく見て習いましょう)

新	駅	父
間	の	は
を	売	通
買	店	勤
う	で	の

小六年 (全員)

芝	寸	幼
居	法	稚
を	師	園
読	の	で
む	紙	一

中二・三年 (行書)

庭	み	古
園	と	都
を	美	の
巡	し	町
る	い	並

中一年 (行書)

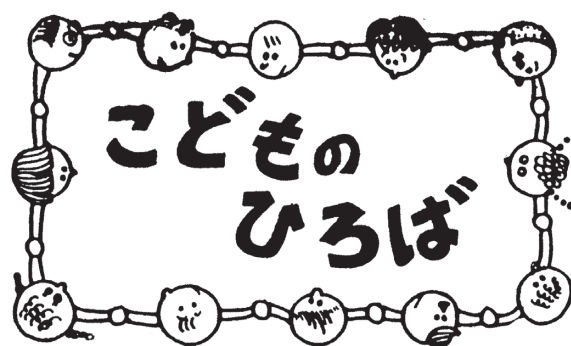
▼小三年以下の課題 ささき けい せん 書
佐々木 恵 泉

ほ	力	さ	畑	学
り	を	つ	の	級
起	合	ま	大	で
こ	わ	い	き	育
そ	せ	も	な	て
う				た



◎お手本はえんぴつ使用

- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



しめきり 10月24日（必着）

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

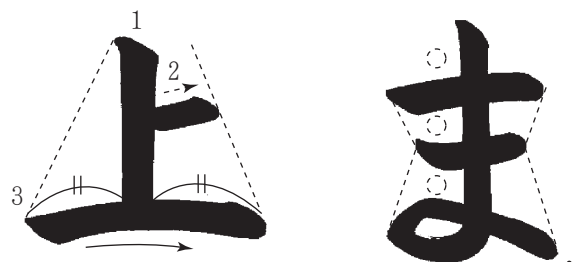
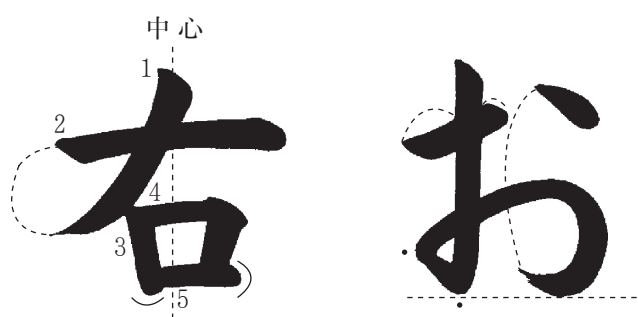
▼小四年以上の課題 おお はら けい えん 書
大 原 啓 園

夢	も	興	本	図
中	の	味	の	書
で	を	の	中	館
読	探	あ	か	に
ん	し	る	ら	あ
だ				る



◎お手本はつけペン使用





小五 育野
つ菜

山秋
小三 の

夜

秋

野

山

菜

五

夜十五
小四

小三・小五年
水野の
碧友
書

小六／中二・三年
玉樹小華書

中三
法一
師寸

小六
売駄
店の

※行書では線の連なりを大切に！

巡

法

師

売

中心

店

庭

中一
巡庭
り園